

主要底魚類の資源評価に関する研究

(資源評価調査・栽培漁業事業化総合推進事業)

道根 淳

1. 研究目的

本県の主要な漁獲対象種のうち、底魚類 14 魚種の資源状況を漁獲統計調査、市場調査、試験船調査により把握し、科学的評価を行うとともに、資源の適切な保全と合理的かつ持続的利用を図るための提言を行う。また、本調査から得られた主要底魚類の漁獲動向については、平成 20 年の漁況として別章に報告した。

2. 研究方法

主要底魚類 11 魚種（ズワイガニ、ベニズワイガニ、ニギス、ヒラメ、マダイ、ハタハタ、タチウオ、カワハギ類、トラフグ、キダイ、ヤリイカ）について漁獲統計資料の収集、産地市場における漁獲物の体長組成調査、生物精密測定および試験船による分布調査を実施した。さらに、これらの調査結果をもとに(独)水産総合研究センターおよび関係各府県の水産研究機関と協力して、魚種別の資源評価を行い、ABC（生物学的許容漁獲量）の推定を行った。

3. 研究結果

(1) 漁場別漁獲状況調査

沖合底びき網漁業および小型底びき網漁業については、66 漁労体の漁獲成績報告書の収集、整理を行い、フレスコシステムによりデータベース登録を行った。また、ずわいがに漁業、べにずわいがに漁業については、漁獲成績報告書と産地市場における漁獲統計の整理を行った。

(2) 生物情報収集調査

主要底魚類 11 魚種については、漁獲統計資料の収集、整理を行うとともに、試験船島根

丸によるトロール網試験操業時に漁獲された漁獲物の体長測定を行った。また、マダイ、ヒラメは出荷物の体長測定を実施した。さらに、(独)水産総合研究センター日本海区水産研究所、西海区水産研究所が中心となって開催される各ブロック資源評価会議に参加し、資源量、漁獲水準等の推定ならびに管理方策の提言を行った。

また、(独)水産総合研究センター日本海区水産研究所および西部日本海沿海各府県が参加する日本海中西部広域連携ヒラメ調査において、本県沖合で漁獲された放流ヒラメの採鱗を行い、mtDNA の収集を行った。

4. 研究成果

トビウオ通信（平成 20 年 2,8 号）において、底びき網漁業の動向および主要底魚類の資源動向に関して情報提供を行った。また、本研究で得られた結果より推定された生物学的許容漁獲量をもとに、ズワイガニの TAC（漁獲可能量）が設定された。さらにマダイ、ヒラメについては、市場調査で得られた体長組成および放流魚の再捕率が放流効果調査データとして利用された。